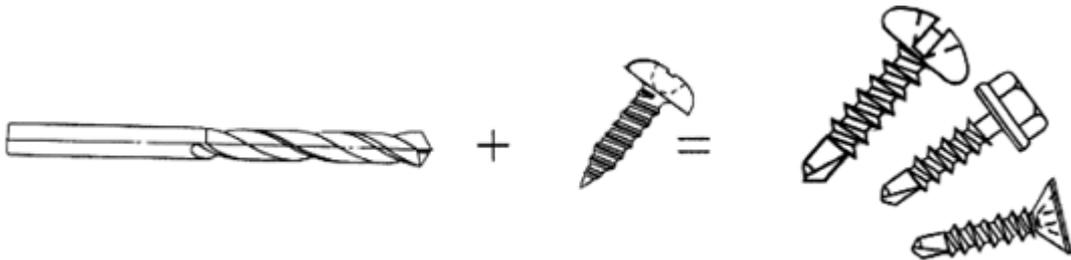




ドリルねじシリーズ part.2

● セルフドリリングスクリューとは？



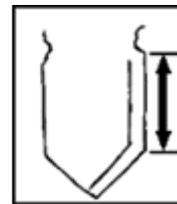
セルフドリリングスクリュー（ドリルねじ）とは、上の図のようにそれまでネジをとめるのに下穴をドリルで開けてタッピングで締結していたのをその刃先をドリル形状にする事によって下穴あけ・タップたて・締結が同時に出来るようにしたものです。

つまりセルフドリリングスクリューにとって「刃は、命！」と言っても過言では、ありません。と言うことで、前回に引き続き『セルフドリリングスクリューの刃先』にこだわってみました。

● セルフドリリングスクリューとは？

セルフドリリングスクリュー適用板厚表

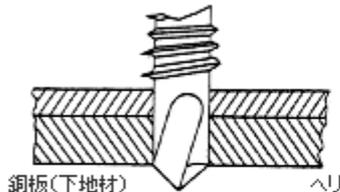
呼び径	3.5		4		5		6	
ビット	プラス	プラス (2#)	六角	プラス (2#)	六角	プラス (3#)	六角	
適用板厚 (最大)	2.3	3.2	3.6	3.6	4.0	4.0	6	



セルフドリリングスクリューの適用板厚については、上の表の通りですが目安としてそのドリルの刃先の長さ(先端のテーパ部は、含まない)が最大板厚となりますので刃先より厚い板厚では、使用出来ません。

正しい使用例

銅板(取付相手材)



銅板(下地材)

へリ

完全に刃先が締結部材を貫通してからねじが立つ状態が正しい使用です。

間違った使用例



刃先が締結部材より短く、未貫通でねじ山がたち始める状態では使用できない。

不具合の例



刃先が前進する速度とねじ山が一山進む速度の違いで締結物が浮いたり圧力が掛かりすぎて刃先が破損したりします。